

公共施設のあり方検討特別委員会審査概要報告書

委員長 本田 利麻

- I 開催年月日 令和 8 年 5 月 25 日 (月)
- II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 2 時 54 分
- III 出席委員等 [出席委員] ◎本田 利麻 ○福井 直樹 水越 進一
山野井拓也 高木 敬介 新開 広恵
熊木 義城 梅島 清香 高岡 宏和
酒井 善広 上田 武 金森 一郎
(◎…委員長 ○…副委員長)
- [議長] 曾田 康司
[副議長] 中村 清志
[説明員] 別紙名簿のとおり
[委員外議員] 塚本 政彦 林 貴文 田中 勝文
中川加津代
[事務局職員] 松本 武司 竹田 裕子 二口 崇
[傍聴者] 1 名

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

[総務部]

- 庁舎のあり方検討事業について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【庁舎のあり方検討事業について】

- 高岡市庁舎整備手法等調査検討業務について、調査の狙いは。
- △ 本調査は、耐震、免震、移転、新築などの庁舎整備における各パターンについて、最新の概算整備費、使用可能期間、メリット・デメリット等を調査・整理するもの

である。具体的には、令和4年度に実施した基礎調査に含まれていなかった耐震を加えたものである。本調査の狙いとして、整備パターンの内容を市民の方々にシンプルな形でお示しすることにより、今後の庁舎整備手法を整理していきたいと考えている。

- これは庁舎のあり方を検討するものなのか。それとも整備手法を比較検討するものなのか。
- △ 整備手法を主眼として調査するものである。
- 庁舎のあり方検討とは、防災機能や市民サービス機能など、庁舎に求められる役割を整理することだと考えるが、見解は。
- △ 今後、市民アンケートを実施し、庁舎整備の方向性を固めることとしており、そのプロセスの第一歩として整備手法を調査している。例えば、庁舎を新築するといった方針となれば、庁舎に求められる役割や機能といったことを整理する必要が出てくると考えている。
- 市民にとって最も大切な視点である庁舎のあり方検討ではなく、整備手法の調査を先に行っており、順番が逆になっている。整備手法が先行することにより、庁舎の防災機能や市民の利便性といったものが抜けてしまうことを危惧している。庁舎に求められる役割や機能などを整理することが先ではないかと考えるが、見解は。
- △ 防災機能、市民サービス機能といった視点は重要と考えている。仮に庁舎を耐震するとなれば、新しい機能の検討は不要になるとも考えられる。今後、市民アンケートを行い、市としての方針を固めていく際には、庁舎に求められる役割も踏まえて対応していきたい。
- 庁舎は災害時の司令塔としての機能を担う重要な施設である。比較検討にあたり、防災拠点として必要な機能や性能はどのように整理するのか。
- △ 災害発生時において、災害対応の司令塔となる災害対策本部の機能を果たすためには、Is 値 0.9 以上が必要である。本市では、この条件を満たす車庫棟に災害対策本部を設置することとしている。
- 7年12月定例会での一般質問に対する答弁と同じ内容だが、そもそも車庫棟で防災機能を担えるのか。市民の安全を預ける施設として適正かどうかという点は疑問に感じる。(意見)
- 比較検討にあたり、市民にとって利用しやすい庁舎、サービスという点はどのように整理するのか。
- △ 現在、市では書かないワンストップ窓口、DXの推進などを進めてきている。これらを活用しながら市民サービスの確保に努めたい。
- そうした機能は市民アンケートに盛り込まれるのか。
- △ 市民アンケートの内容、設問などは決まっていない。現在行っている調査の結果を踏まえ、内容については改めて相談したい。
- 繰り返しになるが、庁舎のあり方については、防災機能や市民サービス機能が重要な視点だと思う。例えば、耐震する場合は、建物内部に壁やブレースが設置され、市民が庁舎内をまっすぐ歩いていたものが、歩けなくなるといった懸念がある。4年度の基礎調査の時点でこうした課題が明確であったため、耐震を想定しておらず、

免震という選択肢が出てきたものと認識している。整備手法だけで市民アンケートを行うと、最終的に市民が求めている庁舎にならないのではないかと危惧している。庁舎はこうあるべきだという視点が抜けた市民アンケートは意味がないと思うので、我々とも議論しながら進めてほしい。(要望)

- 庁舎のあり方検討を行うにあたって、市民目線のアンケートを行うことは大事だが、職員がよりよい行政サービスを提供していくことを考えることも大事である。氷見市では、時代の変化を捉えて、課の名称掲示を取り外せるようにしているほか、市民目線でサービスの向上を図るため、段ボールを使った実験も行った。本来、希望を感じるテーマであるので、行政の目線でも取り組んでほしい。(要望)
- 整備手法の調査結果が明らかになった時点で、様々な市民の意見を伺うため、市民アンケートだけでなく、パブリックコメントも実施してはどうか。市民アンケートについては賛成だが、10月に設問を検討し、11月に実施となると、期間の短さが気になる。結果が明らかになった段階で様々な意見を伺える仕組みが必要ではないか。
- △ 市民アンケートの結果は9年2月頃には公表したいと考えており、庁舎整備の方向性については、9年度以降に市民や議員に説明し、意見交換などをしながら、方針を決定するというスケジュールを想定している。その中で、パブリックコメントとなるのか、別の手法となるのか、現段階では分からないが、広く意見を伺ってきたい。
- できるだけ広く意見を伺うとともに、期間も十分にとるよう配慮してほしい。(要望)
- 移転や新築については、整備する場所によって必要な費用が変わるが、候補とする場所はあるのか。
- △ 市民アンケートの内容については決まっていないが、実現しないような選択肢を設問として入れることはない。市民アンケートの内容については、調査結果を踏まえ、改めて相談したい。
- 新築といっても想定する場所がなければ概算をする意味がないと思う。本来であれば先に場所を確保したうえで、新築や移転という考え方が出てくると思うが、そうした考えではないということか。
- △ 実現できないものを市民アンケートで回答してもらってもミスリードにつながりかねない。このため、具体的なパターンを示していきたい。
- 新庁舎整備ロードマップを白紙撤回した後、我が会派で葛飾区、長崎市、松山市など、様々な自治体を視察した。これら全ての自治体で共通しているのは、まずは庁舎整備のロードマップを作り、市民に庁舎のあるべき姿を明確に説明したうえで、パブリックコメントを行っているということである。庁舎としてどのような施設が必要であるかを説明せずにパブリックコメントを行っても市民にゼロから聞くことになる。これは市民への責任転嫁ではないかと思う。庁舎に求められるものを市民にしっかり説明したうえでアンケートをしないと目指すべき庁舎にならないと考えるが、見解は。
- △ 現在、耐震という選択肢も含めて調査を行っているところであり、仮に耐震とな

れば、現庁舎を活用することになる。この場合、市民サービスをいかに維持するかという点は重要になるものの、庁舎のあり方という点は基本的に出てこないと考えている。一方で、小規模な庁舎を新築し、残りは現庁舎を活用するといったパターンも出てくるかと思う。そうした方向性を示していくことになれば、どのような形で機能を維持するか、どのようによりよいサービスを提供していくか、といった視点で庁舎のあり方を改めて整理する必要があると考えている。

- 仮に市民が耐震を望み、耐震を進めるとなった場合、市民が非常に不便を感じる庁舎になってもそのまま進めるということか。整備手法を先に決めてしまうと、市民が希望している姿にならない可能性が非常に高いと思う。デメリットを被るのは市民であり、職員である。改めて質問するが、順序が逆転していると思うが、見解は。
- △ 新庁舎整備ロードマップを白紙撤回したが、まずは、整備手法を最新の知見で整理するというステップから始めており、様々なパターンを示す中で、庁舎整備の方向性を決めるという段取りで進めている。
- どれだけ指摘しても平行線のため、事例の紹介だけしたい。我が会派が視察したいずれの自治体でも、まずはロードマップを作成し、市民にあり方を明確に示したうえでやっている。そのようにした理由を確認すると、市民に責任転嫁はできないということである。庁舎のあり方というものは、行政としてしっかり説明することが大事であると、いずれの自治体の担当職員も言っていた。今ほどの当局の答弁では、様々な面で不具合が生じることはあらかじめ申し伝えたい。また、先ほど話に出ていたパブリックコメントについては、視察した自治体において3～4件程度しか意見は出てこなかったとのことである。このことも参考にしてほしい。(要望)
- 市民と最も関わっているのは職員である。市民の声も重要だが、職員へのアンケートについては、今後行う予定があるのか。あるいは、既にアンケートを行ったという動きがあるのか。
- △ 新庁舎整備ロードマップを白紙撤回する前に、職員を対象にどのような職場がよいかといったアンケートを実施している。今後、職員へのアンケートを行うかどうかは現時点では考えていない。
- 市民と関わっているのは職員であり、様々な市民の声を聞いているのも職員である。市民アンケートも大事だが、デジタル化で様々な取組を行っている中で、そこで働く職員のことにも大事にしたいという考えもあると思うので、職員の声を聞くアンケートについて、スケジュールの中に入れてほしい。職員の声、市民の声を聞きながら検討していけばよいと思う。(要望)
- スポーツ施設や庁舎の整備を同時に進めるとなると、大きな財政負担が想定される。市民アンケートの内容にもよるが、その結果が市民の方々にとって重要なものになるので、説明会を行う予定はあるのか。
- △ 8年度中に内部で庁舎整備の方向性を固め、9年度以降に市民に説明をしていきたいと考えている。その中で説明会という手法になるのか、あるいは提案のあったパブリックコメントという手法になるのか、現時点では決まっていない。
- 市民アンケートが大事であり、市民が答えやすいようなものになるよう説明をお

願いたい。(要望)

- 10月に市民アンケートの設問を検討するとなっているが、整備手法の比較検討や市民アンケートの設計に関して、どの段階で本委員会に提示するのか。
- △ 本委員会の今後の開催日程については承知していないが、可能であるならば、事前に議員の方々にも説明したうえで、日程が合えば本委員会に諮っていききたい。
- 本委員会に諮り、その1回で承認を得て進むというのは時間的に厳しいと思う。本委員会で内容を十分吟味したうえで、市民アンケートを行う必要がある。その中には、概算費用、維持管理費用に加えて、使用年数、防災機能、市民の利用のしやすさ、職員が働きやすい環境といったものを反映してほしい。(要望)
- △ 市民アンケートの実施に際しては、十分検討し、協議させてほしい。
- 資料として紙に書いたものを委員に配付してほしい。(要望)
- 現在行っている調査について、耐震の視点を追加するというので、耐震に係る見積もりをとっていると認識しているが、そもそも移転、新築といった場合に、ある程度の規模、機能をどうするかという行政側の計画がないと見積もりができないと思うが、計画のようなものはあるのか。
- △ 明確な計画はない。今回請け負った業者とやりとりし、どのような可能性があるのか、検討を進めていきたいと考えている。
- 市民アンケートについては、感覚的な要素で誤った方向に進むのはよくないと思う。数値的な根拠、法令や条例に基づくといったところも考慮し、市民アンケートの位置づけを混乱しないように設定してほしい。(要望)
- 市民アンケートで広く意見を募集することのだが、最も多かった意見が新築だった場合、そのまま新築ということになるのか。
- △ 多数意見は重要と認識している。その結果は尊重するが、9年度以降に様々な意見をいただくことになると思う。その上で議論を重ねて方針を決定したい。
- 今の答弁では、尊重はするが、違う結果になるかもしれないということである。アンケートを受ける市民からすれば、自分たちの意見が一番多かった選択肢を市が採用しないという話になれば、何のためにアンケートを行ったのか、という話になりかねない。先ほど他の委員からも指摘があった通り、やはり市民アンケートを行う前に、市の考えを示すべきではないか。
- △ 今回このような段階を踏んでいくとなった趣旨としては、市民の方々にも一緒に考えていただく、議会の皆さんとも一緒に考えていくということである。市として一定の答えを示す段階の前に、アンケートやその後の様々な議論の場を設けるということで進めていく形としている。
- 例えば、金額だけを強調して各手法が並べられた場合、市民の方にアンケートをすると、一番安い方がいいのではないかという選択になると思う。これから本委員会でも議論をして内容を決めてほしい。(要望)
- 庁舎整備について、各委員から多くの質問や要望が出ている。金額が大きな案件であり、市民アンケートも大事だとは思いますが、最後は議会の承認を得ることになる。議会に対してはもう少し分かりやすく、丁寧かつ迅速に説明してほしい。(要望)
- 新築となったときに6階建て、7階建てが建築できる場所は限られてくる。移転

となったときも移転先のキャパシティを考慮すると限られてくると思う。時間も予算も限られているとなったときに、市の方向性と情報が詰まったアンケートをすることが重要だと思うので、もう一度よく検討してほしい。(要望)

- 先ほど本委員会の開催日程が合えば、本委員会に諮りたいという答弁もあったが、本委員会としては開催日程を合わせるので、しっかりしたものを提示してほしい。

〔教育委員会〕

- (1) 高岡市竹平記念体育館サブアリーナ建設基本設計の結果について
- (2) スポーツ施設整備等の方針について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【高岡市竹平記念体育館サブアリーナ建設基本設計の結果及びスポーツ施設整備等の方針について】

- 令和8年5月22日に開催された議員協議会において、改めて高岡市教育将来構想検討会議を開催することや、高岡市教育将来構想検討会議の委員に説明することについて意見したが、市としては行わないという答弁だったと認識している。本委員会で高岡市教育将来構想検討会議の委員を参考人として招致し、どのような思いで報告をとりまとめたのか、当時の委員の話を伺いたいと思っている。佐藤市長も高橋市長も体育館を整備したかったが、整備できなかった。高橋市長の時代は、東京オリンピックの前までに新総合体育館を整備するということがあったが、財政危機があり、財政健全化緊急プログラムのために断念した。ただ、各スポーツ団体の話を聞き、どのような体育館を整備したらいいかということ踏まえて計画を立てていた。このことは、市職員の方々はよく分かっていると思う。今回の竹平記念体育館サブアリーナに関しても、高岡市教育将来構想検討会議の中にはスポーツ協会の会長、商工会議所の役員、PTA 関係、学校関係、体育施設関係などの方がいる。そうした方々の話を聞いて結論として出した結果が、竹平記念体育館サブアリーナの整備だった。仮に、東洋通信スポーツセンターの代替施設として二塚に新しい体育館を整備するとなると、誰の話を聞いて体育館を整備するというのか。勝手に整備するのか。そうした方々の話をしっかりと聞くべきではないのか。私自身、スポーツ団体の役員をしているが、過去に体育館を整備するとなったときは意見を述べた。また、竹平記念体育館サブアリーナ建設を取り止めたという話も聞いていない。勝手に整備するというのであれば整備すればいいが、市民や利用者が使いやすい体育館を整備するのであれば、話をするべきである。もし、それが嫌だということであれば、高岡市教育将来構想検討会議をもう一度開催し、竹平記念体育館サブアリーナを整備しないということを報告し、代わりに新しい体育館を整備するので協力をお願いすればよいのではないかと考えている。
- 水面下で行うのではなく、オープンで行ってはどうか。

- △ 市の大きな政策にもかかわるため、教育委員会の一存では決められない。市内部で相談して進めていきたい。
- 水面下で会って話をすること自体は悪いことではない。会議を円滑に進めるためには必要な作業である。しかし、仮に新しい体育館を整備するとなった場合は、スポーツ団体をはじめとする関係者の話を聞き、高岡市教育将来構想検討会議の力も借りなければならないと思う。私としては、高岡市教育将来構想検討会議をもう一度開催する必要があると思う。できないのであれば、本委員会に来ていただき話を聞きたいと思う。(意見)
- 県営高岡武道館に関する県の方針としては、県営高岡武道館は廃止し、新しい武道館に統合するとともに、廃止後の施設の活用は地元と協議するものと認識している。県との協議は行われたのか。
- △ 県営高岡武道館の廃止に伴い、本市における武道館が一定期間なくなるため、どのようにその一定期間を埋めていけばよいか、県と話をしながら考えていきたい。
- それは県と協議したということか。
- △ 協議とまではいかないが、相談をしているところである。
- 県営高岡武道館の継続使用ではなく、古府小学校体育館を柔剣道場として改修すると判断した理由は。
- △ 県営高岡武道館の廃止に伴う本市の武道機能の確保について、県と市の担当レベルでこれまで何度も相談しているところである。県からは、県営高岡武道館については、施設の老朽化に加え、狭隘で大会での利用が難しいこと、バリアフリーに対応していないなどの理由で、武道関係者などから新たな武道館の整備が求められてきたと聞いている。現時点では県の施設であるため、市で老朽化に対応するための経費がどれだけ必要かといった詳細な見積りは精査できていない。ただ、今後の使用を考慮した場合、利用者から求められている空調の整備、老朽化している外壁、屋根、配管等に追加の費用がかかることが想定される。武道機能の確保を行うにあたり、学校体育館を活用すれば規模は小さくなるが、県営高岡武道館を活用するより改修費用を抑えることが可能と考えている。
- 資料では、財政的な面からも古府小学校体育館を活用という記載があるため、財政面での比較検討は当然していると思うが、見解は。
- △ 詳細な数字の比較までは行っていない。しかし、将来的に二塚に整備する新しい体育館に武道機能を集約することも選択肢の一つとして想定した場合、古府小学校体育館を活用する方が財政的な負担は抑えられると判断した。
- 具体的な数字もなく推測で決定したということか。
- △ 先ほども申し上げたとおり、現在は県の施設ということもあり、詳細な精査ができていないのが現状である。空調の整備、外壁改修などについて、一般的な工事を想定した場合には、古府小学校体育館を改修する方が費用面で抑えられると考えている。
- 古府小学校体育館を数億円かけて改修するより、県にお願いして県営高岡武道館を使用させてもらう方が、費用は抑えられるのではないか。
- △ 老朽化により県が廃止するという施設であり、空調以外にも相当の改修が必要に

なると考えられる。古府小学校体育館の方が耐用年数もあるため、古府小学校体育館での整備を判断した。

- 古府小学校体育館の改修中は、県営高岡武道館を使用するとしているが、老朽化で継続使用できないと判断したものを結局3年間にわたって使用することになるが、その判断は問題ないのか。
- △ 県と市の担当レベルでは、3年間は耐えることができると考えている。
- 県営高岡武道館の老朽化が継続使用を行わない主な理由と認識したが、トータルでどれくらいの費用がかかるかを精査したうえで判断すべきでは。
- △ いただいた意見も踏まえて考えていきたい。
- 古府小学校の敷地に活断層が通っているとの指摘もあるが、見解は。
- △ 本日午前で開催された県議会議員との懇談の中でも活断層の話が出たが、市として活断層の上に公共施設を今後一切整備しないという方針だと言っているわけではない。先日の市長の発言もそのような趣旨ではない。よって、古府小学校の敷地に活断層が通っていることについて、現時点で何らかの問題があるとは認識していない。また、先ほどの県営高岡武道館の継続使用の件について、仮に市で引き取って何年間か使用するという事になれば、精査するまでもなく古府小学校体育館の改修より多額の費用がかかると思う。県営高岡武道館には空調がないため、空調を整備するだけで、相当な費用が必要である。積算そのものにも費用が発生するため、その必要性についてはよく検討する必要がある。
- 県営高岡武道館を継続使用したいという関係団体からの声が多いため、こうした声を見做して古府小学校体育館に武道機能を整備すると様々な問題が生じると危惧している。施設を利用する側の意見も聞いてほしい。(要望)
- △ 関係団体とは話をしているが、全ての方とお話しできたわけではない。指摘のあったとおり、県営高岡武道館を使用したいという意見があれば、老朽化や空調がないことから使用が難しいという意見もある。様々な方の意見を聞いて判断していきたい。
- 県営高岡武道館については、数年前に耐震補強工事、剣道場の床張替え工事を行っている。これは廃止が決まる前に行っており、そもそも県としては継続使用することを想定して改修してきたのではないかと思うが、県の考えが分かれば教えてほしい。
- △ 県の新しい武道館については、当初は富山駅前の設置を想定していたが、最終的には県総合運動公園での設置となり、県営高岡武道館を改修した頃の構想とは大きく異なるものとなっている。詳細は分からないが、当時の改修は継続使用を目指した改修ではないのではないかと思う。
- 庁舎も築40年以上で老朽化しているが、改修や長寿命化に費用がかかるという視点はなく、耐震して活用することも検討している。一方、県営高岡武道館では費用がかかるため継続使用できないと判断することはダブルスタンダードではないのか。なぜ県営高岡武道館の継続使用を検討しないのか。
- △ 古府小学校体育館での武道機能の確保については、財政的な面もあるが、それだけではない。まず、学校再編に伴う跡地の有効活用という視点があり、それを含め

て今回の方針になったと認識してほしい。庁舎もスポーツ施設も財政的な影響は大きいですが、それだけで考慮しているわけではない。ただ、財政面での考慮もしていかなければ、後世の市民の方々に迷惑をかけることになるので、視点としては大変重要だと認識している。

- 今回の答弁では、たまたま古府小学校の跡地が空いているから、そこに武道機能を整備するというように聞こえる。空調がなくても県営高岡武道館を継続使用したいという関係団体の声は非常に多い。現在、自転車で通い、武道に対して熱い思いを持っている子どもたちに県営高岡武道館を使用させてほしいというのも市民の声ではないか。古府小学校の跡地が空いているからというのは、そうした声をまったく反映していない。教育委員会として、現在施設を使用している方やこれから使用する方に対し、しっかりと説明するべきである。古府小学校体育館に整備する場合、空調などを整備し20年しか使用できないとなると、これは二重投資ではないのか。今あるものをそのまま使用しつつ、将来的に新総合体育館に併設するというのであれば二重投資ではないと思う。この件については、改めて質問したいと思うが、最も重要なのは武道人口の減少を助長することにつながりかねないということである。これまで昇段試験やインターハイの予選など、全て県営高岡武道館で行ってきた。古府小学校体育館に整備するとなった場合、氷見線に乗車して長い坂を上らなければならない。また、古府小学校の周辺道路は非常に細い。このような様々な課題も踏まえて検討すべきと考えるが、見解は。
- 同様の意見を持っている方もいると思う。ただ、空調がないというのは、今の時代からすると、まったく運動ができないという考えもある。利用者の通いやすさという点については、剣道の道具一式を持って電車で移動するというのはおそらく高校生以上だと思う。小中学生は保護者が車で送迎しているという現状がある。交通利便性の面で通う子どもが減るのではないかという指摘も分かるが、安全面等も考慮すると、保護者の負担はかかるが、送迎をした方がよいという意見もある。それぞれの意見を聞きながら、何がベストでベターであるのか、よく考えていきたい。指導者の意見、保護者の立場、関係者の積み上げてきた歴史など、多くの意見や考えがあるため、それぞれ意見を聞いていきたい。
- 答弁について理解できないことはない。ただ、サッカーや野球に関しても、子どもがしたいと言っても、土日の送迎が大変で、親が止めているという話をよく聞く。これを武道に当てはめると、武道人口が本当に減ってしまう。ある剣道関係者からは、自分で道具を持っていく、自分の力で行く、それが武道の精神であり、それを十分に考慮して検討してほしいとの話を聞いている。こうした市民の声もしっかりと聞いてほしい。(要望)
- 竹平記念体育館サブアリーナについて、第4回高岡市教育将来構想検討会議で竹平記念体育館の拡張の可能性に関する資料が示されている。この資料と、今回示された基本設計の結果は大きく変わらないと認識している。想定と大きく変わらないのに基本設計の結果を踏まえて方向転換したというのは辻褄が合わない。高岡市教育将来構想検討会議の資料は令和6年度に提示されており、なぜ今になって想定の内容と異なるという見解になるのか。

- △ 基本設計が終わった段階での課題として今回提示したが、この課題だけで竹平記念体育館サブアリーナを取り止めたわけではない。先般の議員協議会で市長が申しあげたとおり、市長の公約ということもある。また、財政的にある程度のものは整備できる状況であるという考えもある。高岡市教育将来構想検討会議の議事録も読んだが、将来的にスポーツコアへの体育館整備が前提となっている。市の判断としては、竹平記念体育館サブアリーナという段階を踏まなくても、スポーツコア内に体育館を整備できるという提案をしていると認識してほしい。
- 高岡市スポーツ推進プランは本市のスポーツにおけるマスタープランと位置付けていると認識しているが、このプランではアスリートの育成と競技力の向上、スポーツを通じた地域の活性化といった基本目標がある。また、基本目標を達成するための基本施策の方向性が定められているが、メインアリーナとサブアリーナが併設された体育館が今後 20 年整備されなくなることは、プランの内容と齟齬が生じるのではないかと思うが、その整合性はどのように考えるのか。
- △ 新しい体育館を整備するという方針が決定した段階でプランとの整合性を図っていくべきだと考える。教育委員会としては、新しい体育館を整備することで、プランに掲げる内容を実施できるものもあると考えている。
- 上位計画のプランがあるのに、市長が公約だとして進めるために影響が出ている。議員協議会でも行政の継続性について指摘されていた。職員にとっても議員にとっても何年、何十年かけて協議してきたものが覆されるというのは、非常に戸惑うところがある。二代表制の一翼を担う議員として、市民に対してこれまでの経緯を説明しているが、それが大きく変わるということになると、議員としてもそれを市民に伝える必要がある。この点について行政としてもしっかり対応してほしい。(要望)
- 7年3月定例会での一般質問に対し、当時の教育長は、竹平記念体育館サブアリーナの整備によりブロック大会や全国大会が可能となり、プロや実業団スポーツについて複数の誘致が広がるといった答弁をしている。この答弁の内容と今回資料として提示している内容は辻褄が合っていないと思うが、この齟齬はどのように考えているのか。
- △ それぞれの競技、団体でルールがある。サブアリーナがあれば何よりだとは思いますが、サブアリーナがなくても誘致できる競技もある。新しい体育館でのプロスポーツ誘致についても、近隣の施設を活用した分散開催などで可能な競技もあるため、齟齬はないと認識している。
- 高岡市教育将来構想検討会議で竹平記念体育館サブアリーナという結論を出したのは、プロのバドミントンの誘致を見据えたものだと思う。サブアリーナが併設された体育館がないと高岡にバドミントンは来ないと思う。一つの案ではあるが、新しい体育館はメインアリーナだけでなく、サブアリーナも同時に整備してはどうか。そうすればこの問題は一気に解決する。ゼロベースで考えていくと言っているのであれば、そうした観点も含めて考えていくべきである。できればの話であるが、メインアリーナとサブアリーナ、武道館も併設された2万人規模のスタジアムが整備されるのであれば誰も反対しない。財政的な面から難しいという判断があるのかも

しれないが、議論していかなければならない。もう 10 年待つて立派な体育館ができるのであれば待てばよいというとも思う。我々も反対しているわけではない。市民のために開かれた体育館、大きな体育館が必要である。数万人規模のスタジアムがあれば、東京から新幹線に乗ってお金をかけてでも高岡に人が来る。私の家族も東京ではチケットが取れないので、新潟に行っているが、新潟は高岡から行きにくい。コンサートを呼べるような規模の体育館にすれば、ホテルの誘致など、本市にとって稼ぐ力の一つになる。そういった視点も含めて検討してほしい。財政状況に合わせた施設を整備するとなると、規模の小さい残念なものになってしまうおそれがある。市民が望むものは何なのか、しっかりと議論していく必要がある。(意見)

○ スポーツコアの出入口付近は道路渋滞が生じており、特に大会開催時は混雑していると相談を受けている。周辺には大型のショッピングセンターもあり、最近では環状線を通して多くの方の行き来がある。スポーツコア内に新しい体育館を整備するとなると、さらに交通量が増え、安全面での課題も出てくると思う。こうした課題についてどのように認識しているのか。

△ 関係部局と連携して検討していきたい。

[参考人招致]

参考人の招致については、全会一致で、実施すべきものと決した。参考人については、令和 5 年度から 6 年度にかけて体育施設のあり方を検討した高岡市教育将来構想検討会議の当時の委員となった。できるだけ多くの方に参加していただくよう調整することとし、人数及び人選は正副委員長に一任となった。意見を聴こうとする案件については、「高岡市教育将来構想検討会議での体育館施設のあり方に関する検討経緯及び内容等に関すること」「令和 8 年 5 月 8 日に市が新たに示したスポーツ施設等の整備方針に関すること」となった。参考人を招致する日時及び場所については、8 年 6 月定例会の開会までに参考人を招致する委員会を開催することとし、具体的な開催日程等は正副委員長に一任となった。なお、参考人を招致する委員会については、当局説明員の出席は求めないこととなった。

2 その他

○ 次回以降の本委員会の開催について

令和 8 年 6 月定例会の開会までに参考人招致を行う委員会を開催すること、令和 8 年 7 月 30 日(木)午後 1 時に委員会を開催することが報告された。

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

公共施設のあり方検討特別委員会 当局説明員名簿（11名）

副市長	竹内 延和		
市長政策部長	日名田 尚明	教育長	杉山 智充
市長政策部政策監	寺井 知恵	教育次長	表野 勝之
チェンジ推進課長	宮崎 篤生	教育総務課長	芹山 奈緒樹
		生涯学習・スポーツ課長	高山 篤志
総務部長	山本 真弘		
総務部次長 財政課長	新保 貴之		
管財契約課長	江尻 典世		